雜載

二挺艫一挺艫共に、雨降れば小屋形へしかけ、苫をかけ申候、

〔利根川圖志一〕運輸

公用の船を御用船といひ、諸侯の御手船を御船といひ、他の船を以て貢米を運送するを御雇船といふ、また定雇船あり、この他は賣船なり、運賃は米百俵の重を百斛とし、薪材をもこれに准へて、百斛に銀若干といふ、猶遠近に因て差あり、薪材の重は、船の喫水を以てこれを量る、先銚子口より關宿に上り、それより江戸に下るを利根の直船といふ、荷物は大槩乾鰯魚油なり、常陸の北浦西浦より出づるは、米穀、炭、薪、材木等なり、印幡沼、衣川、上利根川亦同じ、長沼、手賀沼は、入樋ありて船入らず、蠶養川は、大率竹筏多し、この筏、水路を妨ぐる事多きを以て、御用の外は、舟人、字して川盜といふ、船は艫のみ入るなり、

〔倭名類聚抄十一〕舟事類　說文云、艘（子紅反、俗云爲流、）船著沙不行也、唐韻云、艤（魚綺反、訓不整）舟向岸也、舫（初教反、訓加比路久、）船不安也、

〔箋注倭名類聚抄三〕本朝月令、引高橋氏文云、船遇潮涸天渚上爾居奴者是也、又見源俊賴歌序、今俗呼須和留、〇中略按史記項羽本紀、烏江亭長檥船待、注、如淳曰、檥、正也、孟康曰、檥、附也、附船著岸也、如淳曰、南方人、謂整船向岸曰檥、是玉篇唐韻所本、則字從木爲正、其從舟俗字、又按說文、檥、斡也、斡、築牆耑木也、段玉裁曰、耑謂兩頭也、檥船者、若今小船兩頭植檣爲系也、則知檥本築牆所植兩頭木、轉爲整船向岸者、植檣於船兩頭以系之也、訓爲不奈與曾比不允、〇中略按、枕冊子、謂芒爲似加比路伎立人、蓋同語、今俗訛云加之具、

〔藻鹽草十七人事雜物幷調度〕船　むやひ　小船を二そうも三そうもくみあはするを云也、又小舟なられ共、くみ合するも也、又もやひ共云也、同事と云々、但是はいかゞ、世俗にはもやうとは云也、

〔倭訓栞中編二十六牟〕むやひ　もやひに同じ

〔類聚名物考船車二〕もやひ